

ご存じ
ですか？

世田谷区

認知症とともに生きる 希望条例

希望のまちをつくるのはわたしたち

いくつであっても、認知症になっても
地域の中で、つながり、楽しみ、活躍しよう！
世田谷のまちで、ずっといっしょに！

条例作成には認知症の本人
3人が加わり、4つのポイントを
大切にしてみました。



- ① 「認知症になると、なにもわからなくなってしまう」という
まちがった考え方をあらため、「希望をもって生きることができる」
新しい認知症の考え方へと変えること。
- ② だれもがなりうる認知症について、みんなで「そなえ」をすること。
- ③ ひとりひとりが希望を大切にしあい、ともに生きるパートナー
(伴走者)として支えあうこと。
- ④ 認知症とともに今を生きる本人の希望と、あたりま
えにくらせること(権利・人権)をいちばん大切にす
ること。

ちょっと一緒に
動き出そう！

条例、アクションガイド、認知症在宅生活
サポートセンター、あんしんすこやかセン
ターについて、二次元コードからもご覧
いただけます。

条例の本文やパンフレット、アクションガイドは、
世田谷区ホームページでご覧いただけます。

世田谷区 認知症 条例

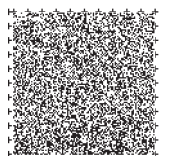
🔍 検索

世田谷区 アクション講座

🔍 検索

問合せ先 世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課 電話 5432-2954 FAX 5432-3085
世田谷区認知症在宅生活サポートセンター 電話 6379-4315 FAX 6379-4316

※認知症・もの忘れについてのご相談は、お近くの「あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)」まで



認知症の本人に聴こう、声から学ぼう！

- ・診断後、間もないころは自分も家族も混乱した。付き合い方がわかり、いまはとても安定している。
- ・「老人として自立した生活」を送るのがモットー。

長谷部泰司さん



- ・教師として、子どもに美術を教えていた。周囲はできないと思い込んでいても、できることを支援すると子どもは伸びる！自分も同じ。

澤田佐紀子さん



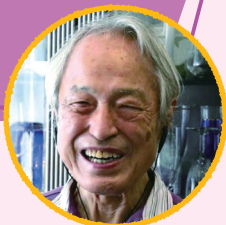
- ・決めつけないでほしい。
- ・家にこもってはいはだめ、どんどん外に出よう。オープンにしよう。

貫田直義さん



- ・もの忘れは年々進んでいるが、絵を毎日描いていることが生きるチカラに。
- ・妻とは仲良く、お互い笑顔でいたい。

林信之さん



新しい認知症観へChange!!

古いイメージ

- ①他人ごと。自分には関わりがない。目をそらす。
- ②本人はわからない。できない。本人の声を聴かない。
- ③本人が決めるのは無理。まわりが決めてあげるのが当然。
- ④支援してあげる。本人は支援される一方。
- ⑤地域で暮らすのは無理。

新しいイメージ

- ①自分ごと。自分にも関わりがある。そなえる。
- ②本人なりにわかる。できることがある。本人の声を聴く。
- ③本人が人生の主人公。本人なりの思いがある。自分で決められる。
- ④本人が自分のチカラを活かして活躍する、支え合う。
- ⑤地域で暮らし続けられる。自分は自分。

できることから始めよう！

世田谷区では、認知症の本人が希望をもって暮らし続けられる地域づくりの第一歩として、各地区のあんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）で「アクション講座（世田谷版認知症サポーター養成講座）」を開催しています。ご興味のある方は、ぜひお近くのアんしんすこやかセンターへご連絡ください。

認知症の本人と一緒にできることはなんだろうか？

あんしんすこやかセンター
一覧はこちら

